

小山市事務事業評価シート

令和元年度版

No. 4

1. 基本情報				
<1> 事業・業務名	渡良瀬遊水地(第2調節池)湿地保全推進事業		<2> 事業・業務の別	事業
<3> 選定基準	④ その他		<4> 継続評価/新規評価の別	継続評価
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	8 水と緑に親しむ 自然とふれあうまちづくり	<6> 担当部(局)	総合政策部
	中項目	8-1 渡良瀬遊水地をはじめとする自然環境の保全・活用	<7> 担当所属	渡良瀬遊水地ラムサール推進課
	小項目	8-1-1 渡良瀬遊水地	<8> 担当係等	ラムサール賢明な活用推進係
	施策	生物多様性おやま行動計画の推進		
<9> 根拠法令・計画等	生物多様性おやま行動計画	<10> 関連・類似事業		
<11> 会計	一般	会計	<12> 予算科目	2 款 1 項 7 目
<13> 実施期間	年度 ~ 年度	<14> 全体事業費	千円	
<15> 実施手法	直営		「その他」の場合 ()	

2. Do - 実施 -	
<16> 事業・業務の概要	国土交通省の湿地再生掘削により整備される「浅い池」「深い池」等を活用して、自然観察・体験の場を提供する「エコミュージアム」の整備・実現に向け、渡良瀬遊水地の湿地環境及び湿地性希少植物の保全を図るため、関係機関・団体やボランティアの協力のもと、湿地の希少植物の生育に悪影響を及ぼすヤナギやセイタカアワダチソウの抜き取り作業を実施している。また、活動を通して、より多くの方に渡良瀬遊水地の貴重な環境に触れていただく他、表彰制度の活用により、団体や企業の保全活動への関心を高め、CSR活動への移行を目指す。

目的	<17> 事業・業務の目的	渡良瀬遊水地第2調節池環境学習フィールドの、湿地環境及び湿地性希少植物の保全のため
	<18> 事業・業務の対象	渡良瀬遊水地第2調節池環境学習フィールド及び関係機関・団体、ボランティア

手段	<19> 平成30年度の活動内容	5・7・12・2月の全4回、渡良瀬遊水地第2調節池環境学習フィールド3及び環境学習フィールド1(12月のみ)においてヤナギやセイタカアワダチソウをはじめ湿地環境に悪影響を与える植物の抜き取りのほか、環境学習フィールド1においては土壌の攪乱作業を実施した。また、今年度は企業のCSR活動として、10月に湿地保全活動を実施した。また、昨年度に引き続きポスターを作成し、年間を通して周知をした。さらに、実施されるすべての回に5人以上で参加した企業・団体を「平成30年度渡良瀬遊水地湿地保全サポート団体」とし感謝状を贈呈する制度を実施し、より多くの参加者を募った。						
	<20> 活動指標 (活動した量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度		
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)
		チラシ配布	枚	20,000	20,000	20,000	20,000	100.0%
		ポスター配布	枚	200	200	200	200	100.0%

成果	<21> 事業・業務の成果	平成26年度から継続して実施しており、これまで延べ約13,500人の方に参加いただいている。これまでの活動により、活動フィールドにおいて、ミズアオイ(環境省レッドリスト準絶滅危惧)、ツツイトモ(絶滅危惧Ⅱ類)、オオアブノメ(絶滅危惧Ⅱ類)等の希少種が確認された。また、多くの企業・団体が継続して参加し、「平成30年度小山市渡良瀬遊水地湿地保全サポート団体」は11団体であった。						
	<22> 成果指標 (活動の成果の量や実績)	指標名	単位	平成29年度		平成30年度		
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)
		参加者数(1回平均)	人	700	675	700	575	82.1%
		小山市渡良瀬遊水地湿地保全サポート団体	団体/年	15	6	15	11	73.3%

資源	<23> 投入指標 (投入するお金の量)	コスト実績		平成29年度		平成30年度			
			単位	計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
			千円	2,676	2,393	2,547	2,565	100.7%	
		事業費等		千円	517	234	403	421	104.5%
		財源内訳	国・県補助金	千円	517	234	403	421	104.5%
			地方債	千円					
			その他	千円					
人件費		千円	2,159	2,159	2,144	2,144	100.0%		
	正職員	千円 × 人役	7,195 × 0.3	7,195 × 0.3	7,146 × 0.3	7,146 × 0.3			
	他の職員	千円 × 人役	×	×	×	×			

3. Check - 評価 -			
妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か?	1.妥当である	
	<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?	1.妥当である	
	<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?	2.変わらずにある	
有効性	<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か?	1.妥当である	
	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか?	1.向上の余地はある	
効率性	<29> (総合計画基本計画)施策への貢献度は大きいのか?	2.中位	
	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか?	1.向上の余地はある	
公平性	<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か?	1.検討可能である	
	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?	4.該当しない	

<33> 総合評価 (事業全体の改善の余地)	2.改善の余地はある	理由	平成30年度に企業のCSR活動としての活用が実現できたところであり、さらに多くの企業等が活用できるように働きかけることで、事業費や人件費を削減できる余地がある。
---------------------------	------------	----	--

4. Action - 改善 -			
事業の改善	<34> 事業の課題 事業の改善点 今後の方針	企業等のCSR活動としての活用を、表彰制度等をきっかけに働きかけていく。また、新たに掘削されたフィールドについては、先進地の事例等を参考に、専門家の意見を聞き取りながら保全を行う。	

事業の方向性	<35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	表彰制度の対象者が、前年度の6団体から11団体に増加するなど、企業等の湿地保全に対する関心が高まっており、こうした団体による独自の湿地保全活動につながれば、官民一体での保全が図られると見られる。
	<36> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	活動場所において着実に希少種が増加しており、多様な関係団体や市民を巻き込んだ湿地保全活動の実施による成果が表れてきたことで、渡良瀬遊水地を軸とした連携・協働の基盤が醸成しつつある。引き続き、専門家の意見を聞き取りながら、活動場所や時期、回数等を設定し、本事業を充実していく必要がある。

5 Plan - 計画 -			
<37> 実施計画	年間全4回実施。 引き続き表彰制度を活用して参加者の増加を働きかける。		

事業の計画	<38> 活動・成果目標	渡良瀬遊水地の湿地環境及び湿地性希少植物の保全を行うとともに、より多くの市民等の環境保全への理解を深めるきっかけとする。			
	<39> コスト計画	単位	令和元年度	令和2年度	
		千円	2,571	2,571	
	事業費等	千円	427	427	
	人件費	千円	2,144	2,144	